

水稻「にじのきらめき」栽培暦

月	4			5			6			7			8			9			10																			
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																	
生育ステージと管理	<div>【生育ステージ】<div>育苗期間有効分げつ期間幼穂形成期穂ばらみ期出穂期登熟期乳熟期糊熟期黄熟期成熟期</div><div>活着期最高分げつ期</div></div>																																					
	<div>【管理要点】<div>播種施肥・代かき穂肥(出穂 25～20 日前)収穫</div></div>																																					
	<div>(水管理)<div>田植え5 cm 程度深水(活着促進)浅水管理(分げつ促進)中干し間断かんがい深水管理間断かんがい落水(高温時は掛け流し)</div></div>																																					
	<div>葉いもち病防除穂いもち病防除</div>																																					
栽培管理のポイント	<div>品種特性と留意点<ul style="list-style-type: none">にじのきらめきは、コシヒカリより収穫期が4～5日程度遅い「中生の晩」の粳品種である。稈長は75 cm前後でコシヒカリより20 cm程度低く、耐倒伏性に優れる。また、高温耐性に優れる。穂数はコシヒカリよりやや多く、玄米千粒重は25 g前後で2 g程度重い。収量性は、平坦地では多収となる。スイートコーンやナス等の収穫跡地では残肥が多く、倒伏や食味低下の恐れがあるため、作付けを避ける。縞葉枯病に抵抗性で、いもち病への抵抗性はコシヒカリより強い。過繁茂になると紋枯病が発生しやすい。耐冷性は弱いため、高冷地での作付けは避ける。</div>						<div>土づくり<ul style="list-style-type: none">土壌の状態に応じて、土壌改良資材を施用する。</div> <div>施肥<ul style="list-style-type: none">基肥は、窒素(N)成分で7～8kg/10aを目安とし、生育や地力に応じて加減する(コシヒカリの1.5倍程度)。追肥(穂肥)は、出穂25～20日前頃(7月中下旬頃)を目安に、窒素成分で2～3kg/10aを施用する。コシヒカリよりも葉色が濃いので、追肥は適量を施用する。<div>【例1】基肥＋追肥(穂肥)単位: kg/10a<table><tr><th></th><th>肥料名(例)</th><th>施用量</th><th>NPK成分量</th></tr><tr><td>基肥</td><td>コシヒカリ専用085(NPK: 10-18-15%)</td><td>70</td><td>7-12.6-10.5</td></tr><tr><td>追肥</td><td>NK化成17号(NPK: 17-0-17%)</td><td>15</td><td>2.6-0-2.6</td></tr></table></div><div>【例2】基肥－発肥料単位: kg/10a<table><tr><th></th><th>肥料名(例)</th><th>施用量</th><th>NPK成分量</th></tr><tr><td>基肥</td><td>甲斐てまいらず(NPK: 20-12-11%)</td><td>50</td><td>10-6-5.5</td></tr></table></div></div> <div>病虫害防除<ul style="list-style-type: none">田植え時の箱施用処理により、いもち病やイネミズゾウムシ等の初期防除を徹底する。本田では、6月中旬頃～葉いもち、7月下旬頃～穂いもちの発生状況を確認し、防除する。過繁茂になると紋枯病が発生しやすいので、密植や過剰施肥は避ける。発生が見られた場合、幼穂形成期～穂ばらみ期に薬剤防除を行う。</div>							肥料名(例)	施用量	NPK成分量	基肥	コシヒカリ専用085(NPK: 10-18-15%)	70	7-12.6-10.5	追肥	NK化成17号(NPK: 17-0-17%)	15	2.6-0-2.6		肥料名(例)	施用量	NPK成分量	基肥	甲斐てまいらず(NPK: 20-12-11%)	50	10-6-5.5	<div>水管理<ul style="list-style-type: none">田植え後～活着までは、植え痛み防止のためやや深水管理とする。田植20～30日後まではやや浅水管理として、分げつ発生を促進する。有効分げつが終わる時期(出穂30～40日前頃)、中干しを行い、過剰な窒素分の供給を抑えると共に地面を固める。中干し後は、間断かんがいとする。穂ばらみ期から穂揃期までは深水管理とする。出穂後(穂揃期後)は間断かんがいとし、高温時は掛け流しを行う。出穂後30日以降に落水する。落水後、極端な高温・乾燥が続く場合は走水程度の灌水を行う。</div> <div>収穫<ul style="list-style-type: none">コシヒカリより収穫期が遅いため、粳の状態や出穂後の積算気温等も参考に、適期収穫に努める。<ul style="list-style-type: none">・帯緑色粳率(※2)6月上旬移植: 5～15%6月中旬移植: 5～20%・出穂後の積算気温6月上旬移植: 1,100～1,200℃(※3)6月中旬移植: 1,100～1,250℃</div> <div>※積算気温が1000℃では青未熟粒、1400℃を超えると胴割れや茶米の発生が多くなって品質低下につながる。にじのきらめきの場合、穂が止め葉に隠れて収穫適期が分かりづらいので、粳の黄化割合をよく観察して適期収穫に努める。</div>					
		肥料名(例)	施用量	NPK成分量																																		
基肥	コシヒカリ専用085(NPK: 10-18-15%)	70	7-12.6-10.5																																			
追肥	NK化成17号(NPK: 17-0-17%)	15	2.6-0-2.6																																			
	肥料名(例)	施用量	NPK成分量																																			
基肥	甲斐てまいらず(NPK: 20-12-11%)	50	10-6-5.5																																			

【用語の説明】

※１ 浸種時積算温度：浸種（種子を水に浸して給水させて休眠を打破する工程）時の水温の合計。２０℃の水に２４時間浸すと積算温度２０℃となり、これを５日間行くと積算温度１００℃となる。

※２ 帯緑色粳率：１穗に付いている粳のうち緑色を帯びている粳の割合。１穗に１００粒の粳があり、このうち１０粒が緑色を帯びている場合、帯緑色粳率は１０％となる。

※３ 出穂後の積算気温：出穂期（ほ場全体の４０～５０％が出穂した頃）以降の平均気温の合計。平均気温２５℃が１０日間続いた場合、この間の積算気温は２５０℃となる。

【注意点】

○この栽培暦はＪＡ梨北管内で栽培することを前提に作成しているため、お住まいの地域のＪＡで取り扱われている肥料や農薬等の情報についてはお近くの農務事務所にお問い合わせください。

- ・中北農務事務所 ０５５１（２３）３３１０（農業・農村支援課：生産振興第一担当） ０５５１（２３）３２９１（農業・農村支援課：生産振興第二担当）
- ・峡東農務事務所 ０５５３（２０）２８３０（農業農村支援課：生産振興第一担当・生産振興第二担当）
- ・峡南農務事務所 ０５５（２４０）４１３１（農業農村支援課：生産振興担当）
- ・富士・東部農務事務所 ０５５４（４５）７８０６（農業農村支援課：生産振興担当）